

せたがやアーツプレス

SETAGAYA ARTS PRESS

世田谷アートセンター

同じ夢 / 原色衝動



世田谷美術館
「スペインの彫刻家フリオ・ゴンサレス」展
「ファッション史の愉しみ」展

『同じ夢』

世田谷文学館
第35回 世田谷の書展
— 世田谷ゆかりの作家たち —

生活工房
穴アーカイブ:an-archive
— 世田谷の8ミリフィルムにさぐる

音楽事業部
打楽器音楽の可能性を追求する
會田瑞樹

2015.12-2016.3

Vol. 6

公益財団法人 せたがや文化財団

対談 赤堀雅秋 × 光石 研

シアターラムに濃密な空気が充ち、人間ドラマが立ち上がる

この豪華な顔ぶれをどう形容したら良いのだろうか。舞台、映像の区別なく、その一人でも関わった作品は常に耳目を集める。そんな6人が集結し、シアターラムで紡ぐ物語が『同じ夢』だ。見知らぬ他人同士が集い、一つの夢を見る劇場という場にふさわしい新作のタイトル。まだ世にない作品をめぐり、仕掛け人の2人が今語ることは。

——そうそう 録々たるメンバー、というべき
創り手が集まったカンパニーですね。

赤堀 ワクワクする凄いキャストですよ、と言うと他人事みたいですけど。

光石 そうでもないでしょう(笑)。

赤堀 男優陣とは僕、おこがましいですけど舞台や映画で俳優として共演させていただいているんです。大森南朋さん、光石さんとは『東京プレイボーイクラブ』(2011)という映画で共演しました。それ以来、舞台で共演した田中哲司さんも交えて飲んだりする機会もポツポツあって。居酒屋発信と思われるのはイヤだし、そういう匂いの作品も嫌ですが、今回その要素があったのは事実です(笑)。

—— 舞台出演の機会が多くはない光石さんですが、昨年の『水の戯れ』から2年続けて演劇作品へのご登場です。

赤堀 そう、伺いたかったんですよ。何故舞台が嫌いなのか。

光石 嫌いとかじゃないですよ。でも、たとえば撮影現場だったら同じ演技をするにしても、僕らに「人に見せる」という意識は全くと言っていいほどないんです。周りにはスタッフの視線しかありませんから。しかも台詞も入った状態だし、衣裳も髪型も決まっている。一方演劇の場合、稽古場ではジャージという限りなく素に近い状態で、台詞どころか何を覚えるかすら定かではない状態から始めなければいけない。

赤堀 なるほど。

光石 そんな自分を晒した状態で人と出会ったうえ、これは僕のイメージなのですが、舞台は「確実にここ」という着地点が決まっている気がするんです。映画、特にインディーズ作品などは着地点の目標はありつつも、天候や予算などいろいろな条件のためにズレが生まれ、そしてゴールが違った、なんて



ことはよくある。でも舞台は、初日も劇場も確実に決まっていて、毎ステージなるべく同じエンディングに辿りつかねばならない、という感覚があって。そういう違いがまだ自分に染み込んでいないもので、お話をいただくたび「自分にできるのか?」と不安になるんです。

赤堀 作品内容がはっきり決まっていないので、つい質問を振ってしまいましたが(笑)、却って面白い話が聞けました。でも、僕はまだ映画は2本監督しただけですが、演劇との差をそう大きいものとは感じていないんです。もちろん差異の具体例は語り出したらいろいろあると思うけれど、も

のを作って観客に見せる、お芝居をするという行為に本質的な違いはないというか。僕は、演劇は稽古場で1ヶ月近い時間をかけて、最低限のルールを共有したうえで、なるだけ自由に演技できるようにすればいいと思っています。そこは哲司さん、大森さんも同じじゃないかな。哲司さんなんか、毎回わざと違う動きを入れてきますからね。

光石 そういうの、ヤだなあ(笑)。

赤堀 ルールの範囲内ですけど。その変化の中で「あ、こんな声出るんだ!」と、自分も共演の方からも思ってもみなかった表現が飛び出す、カッコ良く言えば「奇跡の瞬間」みたいなものを、映画でも演劇でも引き出して記録したいんです。舞台はそれを、回数分やらないといけないところがキツいんだけど。

光石 ああ、その感覚は僕にもわかります。

赤堀 でも僕自身、演劇を始めたばかりの頃は偏見の塊で、普段着のまま稽古もしたし、わざと顔に光が当たらないような照明にしたり、何かと反抗してました。何に反抗してたかはよくわからないけど(笑)。

光石 赤堀さんみたいに言うてくださるほうが、僕には合う気がするので安心しました(笑)。

赤堀 そんな鬱屈した演劇への想い、溜まった膿を出すような気持ちで最新作の『大逆走』では、自分が勝手に毛嫌いしていた“演劇的要素”を全部ブチ込んだような芝居を作ったんです。抽象表現からシェイクスピアまで、何でもアリの。

光石 えー、僕ついていけますかね。

赤堀 いや、『同じ夢』はそれとは真逆の原点回帰、たとえばボロアパートのような具象の装置でワンシチュエーションの物語というようなことを考えています。

—— 光石さんは、赤堀作品はご覧になっているんですか？

光石 映画を拝見しましたが、すごく面白かった。赤堀さんは作品にも俳優の佇まいとしても、ゴツツとした手触りと、生身でガンッとぶつかってくるような感じがあって魅力的ですよ。それに、日常から立ち上がってくるような物語や人物が多い。僕は、物事は常に日常からしか起こらないし、与えられた役も、結局は自分のルーツを頼りに演じるしかないと思っているから赤堀さんの作品には共感しやすいです。

赤堀 嬉しいです。僕も結局は自分の血肉でしか書けない、演じられないと思っているので。今回は人間くさい人ばかりの、現実的な物語になると思います。というイメージの話しかできなくて、本当にすみません!

光石 いえ、台本楽しみに待ってますよ。

[構成・聞き手：大堀久美子][撮影：細野晋司]

● 赤堀雅秋 (あかほり・まさあき)

1996年、THE SHAMPOO HATを旗揚げ。作・演出・俳優の三役をこなす。人間の機微を丁寧に紡ぎ、市井の人々を描くその独特な世界観は、多くの支持を集めている。近年は劇団公演のほか外部公演の作・演出も手がけ、俳優としても存在感を示している。2007年に劇団で上演した『その夜の侍』を自身の脚本・監督で12年に映画化し、12年度新藤兼人賞金賞、第34回ヨコハマ映画祭森田芳光メモリアル新人監督賞を受賞。13年、『一目目ぞめき』(上演台本)にて第57回岸田國士戯曲賞受賞。映画監督2作目となる『葛城事件』が16年に公開を控えている。

【舞台(作・演出)】『沼袋十人斬り・改訂版』『ヴォイツェク』『歓喜の歌』『殺風景』『大逆走』

【舞台(出演)】『南部高速道路』『オセロ』『鮑』『三人姉妹』

【テレビ】『週刊 真木よう子』(脚本)、『モテキ』『鈴木先生』(出演)

【映画(出演)】『くるりのこと』『岸辺の旅』

● 光石 研 (みつし・けん)

高校在学中の16歳の時、映画『博多っ子純情』のエキストラのオーディションを受けたところ、主役に抜擢されてデビュー。以後、テレビ、映画を中心に多数出演。2015年は発表されているだけでも7本の映画、9本のドラマに出演。自然な佇まいの役柄から、アクの強いキャラクターまで変幻自在に演じ分ける名バイプレイヤーとして確固たる地位を確立している。

【舞台】『アンチクロックワイズ・ワンダーランド』『水の戯れ』

【映画】『深夜食堂』『ジョーカーゲーム』『天空の蜂』『恋人たち』

【テレビ】『ど根性ガエル』『サイレン』『遺産争族』



シアターラム

2016年2月5日[金]~21日[日]

『同じ夢』

作・演出：赤堀雅秋

出演：光石 研 麻生久美子 大森南朋 木下あかり 赤堀雅秋 田中哲司

日程・チケット情報は▶ P17

2人のダンサーがアラーキーの世界に挑む『原色衝動』

強烈な色彩と圧倒的なインパクトを放つアラーキー（写真家・荒木経惟）と日韓の同世代ダンサー、白井剛とキム・ソンヨンの運命的な出会いが、未知なる衝撃をもたらす。まさに男たちの怪しくも殺伐とした“パラダイス”と呼ぶにふさわしい『原色衝動』が上演される。

ダンサーズ イン ザ パラダイス

それは、この3年間日韓を行き来しながら、時に挑発し、遠ざかったり近寄ったり、暴露し合い、関係を壊しつくり、重ね合わせてワークショップを繰り返してきた、白井剛とキム・ソンヨンの2人のダンサーがアラーキーの新作写真に唐突に出会い、氏に長い手紙を書いたところから始まった――。

アラーキーは2人の前に膨大な数の写真を持参、「自由に使っていいよ!」と手渡した。唐突から衝動へ、ダンスとフォトグラフィーの新たなコラボレーションの誕生だ。

「似ているようで違っていたり、違っているようで同じだったり、あるいはその間にあるモヤモヤした何かだったり、そういう微細なズレや振動にこそ感覚を発揮できる視点を持った2人なのではないか」と感じている白井。それに対しキムは「これまでの“出会い”に重点を置いたコラボレーションから、互いの身体と精神に宿る普遍性を追求し、“作品性”をもつユニバーサルな作品世界に到達できるのではないか」と応える。

写真集『往生写集一東ノ空・PARADISE』の世界観を携えた新たな舞台を創造しようと同じ船に乗り合わせた2人のダンサー。「互いが互いの身体と歴史と未来に引き寄せられ苛まれながら、互いに迷子になりあった。迷子になりながら、個であることを請け負い



▼白井剛(左)、キム・ソンヨン[撮影:荒木経惟]

◀荒木経惟筆「原色衝動」

ながら、遠くで呼び合う団結があった。互いが灯台となり難破船となり(白井)、2015年9月の京都芸術劇場 春秋座の初演を経て、さらなる衝動を受容した原色の世界が世田谷パブリックシアターに登場する。

優しさの沈黙と饒舌に満ちた写真集『往生写集』でアラーキーは言う。「空の下にちょっと地上の楽園つうかさ、机上の楽園、まあ箱庭のようなもんだな」(2013年インタビューより)。

◎ 白井 剛 振付家・ダンサー

1976年生まれ。98年、カンパニー「Study of Live works 発条ト(ばねと)」を設立し、パニョレ国際振付賞(2000)、トヨタ コレオグラフィーアワード「次代を担う振付家賞」(06)を受賞。ダンサーとしてユリー・ン(香港)振付『悪魔の物語』、伊藤キム振付『禁色』に出演するほか、アルデッティ弦楽四重奏団とのコラボレーション作品「ジョン・ケージ『アパートメントハウス1776』」に出演。07年、ダムタイプの藤本隆行らとともに『true/本当のこと』を製作、世界11ヵ国20都市でツアーを行う。さまざまなアーティストと積極的にコラボレートし、既存の舞台表現にとられない新しいパフォーマンスに取り組んでいる。

◎ キム・ソンヨン 振付家・ダンサー

1976年生まれ。97年、最年少で「東亜舞踊コンクール」金賞を受賞。2013年、「韓国舞踊芸術賞」コレオグラファー賞、「ダンス・ビジョン・コリア」最優秀コレオグラファー賞、第34回ソウル舞踊祭参加作『超人』で大賞をはじめ音楽賞・舞台美術賞など5部門を受賞。自身のカンパニー Dance Company MooEとフランスのカンパニーとで共同製作した作品を、フランス国立レンヌ・フルターニュ振付センター(musée de la danse)で発表するなど、国内外で活躍している。現在、嶺南大学教授、漢陽大学でもダンスを教えるほか、米ベルヘブン大学客員特別講義教授。韓国国立現代舞踊団の招待コレオグラファーとしても活躍している。

世田谷パブリックシアター

2016年 2月26日[金] 19時30分・27日[土] 15時

『原色衝動』

振付・構成・出演:白井 剛 キム・ソンヨン

映像写真:荒木経惟『往生写集一東ノ空・PARADISE』より

チケット情報は P17

新種の爬虫類が組んず解れつ、
別世界のラブシーンが見たいね。
どっちが武蔵で小次郎か、これは新しい決闘だよ。

(撮影時 荒木経惟コメントより)



▲左から白井剛、荒木経惟、キム・ソンヨン

第4回世田谷区芸術アワード“飛翔”舞台芸術部門受賞記念公演
シアタートラム ネクスト・ジェネレーション vol.8

開幕ペナントレース『ROMEO and TOILET』

2月25日[木]～28日[日] シアタートラム

Comment

脚本・演出・美術 村井 雄



開幕ペナントレースは村井雄の提唱する「パフォーマンスとは破壊力だ!」の理念のもと、2006年に結成。エネルギーでシュールなプレイスタイルを特徴とする。日本固有の武道を発達させてきた身体性と漫画・アニメ・ゲームを代表とする日本独自の文化で育った精神性の融合を意識し、日本人特有の新たな身体表現[新しい演劇の形—NEW THEATER/ART AND ENTERTAINMENT]の確立を目指す。結成3年目の09年には『ROMEO and TOILET』にて海外公演(米・ニューヨーク)を敢行し、The



▲『ROMEO and TOILET』[撮影:池村隆司]

New York Timesをはじめとする各種メディアでの劇評を獲得するなどの成功を収め、今後も世界を視野に入れた活動を展開する。

ロミオとジュリエットの闘いは、孤独な作業と言えます。愛で結ばれていると信じるふたりにとって、彼らの身体にとって、それは「今、目の前にある変化との闘い」であり、その場所、その瞬間は彼らだけのものです。そして、ふたりの闘いはそれぞれの孤独の中で悲恋に終わるのです。

私達にとっての闘い、それは廁の個室の中にもあります。まさに「今、目の前にある身体の変化との闘い」であり、これほどシンプルであらゆる時代と環境に対峙しながらも引き継がれてきた圧倒的に孤独な作業はないと言えます。

本作『ROMEO and TOILET』ではそれぞれの孤独の作業の果てに立ち現れるふたりの愛の結晶を描きます。そして、その愛の結晶が便器に落ちる瞬間、次なる悲恋が廁の扉をノックする、その乾いた音がオールスタンディングの会場全体に孤独に鳴り響くのです。

チケット情報は P17

地域の物語2016

『生と性をめぐるささやかな冒険』〈女性編〉

発表会: 3月20日[日]・21日[月・休] (15時開演予定) シアタートラム

「地域の物語」は公募によって集まって下さった方たちと、長期間のワークショップを通じて作品づくりに取り組むプロジェクトです。創り上げた作品は、最後にシアタートラムで発表します。観ていただくのは地域の人々。世田谷パブリックシアターが開館した翌年の1998年から毎年実施されている、劇場で最も長く続いている事業の1つです。平日午前中や夜間、週末など、異なる曜日や時間帯、回数のコースを複数設定していた年もありましたが、ここ数年は週末の1コースで実施しています。

演劇の専門家を進行役に、参加者たちは15回程度のワークショップの中で、身体を動かしたり、互いの話を聞き合ったり、グループ以外の人たちの話を取材しにいたりしながら、自分の考えたこと聞いたことをグループの人々と共に言葉や身体表現に



▲ 2015年度のワークショップ風景

していきます。そうして出来てきた小さな表現をもとに、「自分たちの伝えたいことは何なのか」について話し合いを重ねていきます。そのプロセスでは、演出家や劇作家のアイ

デアや世界観を基に演劇を創りあ

げていくやり方ではなく、参加者自身が、集まったグループ/集団で、自分たちが生活している中で考えていること、感じていることを演劇へと創りあげていくためのさまざまなやり方が試みられています。そのため、どんな作品が出来上がるかは、参加者とそこで話し合われたこと次第。最後の最後まで分かりません。

今年度の『地域の物語』の募集タイトルは、「生と性をめぐるささやかな冒険〈女性編〉」。参加者みんなで「女性であること」について、考えていきます。今まで何となくやり過ぎてきたこと、あえて無視して来たこと、喜び、哀しみ、怒り、幸せ、不安、安らぎ、痛み、孤独——。そんな女性の生と性をめぐるあれこれを皆で見つめていきます。年齢、演劇経験、戸籍の性別、障害の有無は問いません。どなたでも大歓迎です。是非ご参加ください。参加する時間はあまりないという方は、是非シアタートラムに上演を観にいらしてください。

ワークショップ参加者募集中(締切: 12月17日[木]必着)

日程: 1月10日[日]～3月21日[月・休]までの土日祝(ワークショップ16回、発表会2回)

定員: 20名程度 参加費: 7,000円

※申込方法など詳細は劇場ホームページをご覧ください。

▼『地域の物語2015』発表会[撮影:服部貴康]



スペインの彫刻家フリオ・ゴンサレス ——ピカソに鉄彫刻を教えた男

時間をかけて 独自の表現を切り開く

彫刻の世界に鉄を持ちこみ、新たな表現を開拓したフリオ・ゴンサレス(1876～1942年)は、その後の彫刻界に大きな影響を与えました。現在、世田谷美術館で開催されている展覧会「スペインの彫刻家フリオ・ゴンサレス」は、約100点の作品で構成され、その創作の歩みをたどることができます。

苦難を経て、50代で飛翔した芸術家

「ピカソに鉄彫刻を教えた男」として知られるフリオ・ゴンサレス。彼の彫刻家としての活動期間は、50代前半から65歳で亡くなるまでの10年あまりでしかありません。しかし、技術、出会い、時代など、人生におけるさまざまな要素を消化した長い時間が作品に結実しています。

1876年、スペイン・バルセロナの金工職人の家に生まれたゴンサレスは、10代から職人として腕を磨くとともに芸術にもひかれ、ピカソなどの芸術家と親交を持ちました。24歳で画家を志して家族とパリに移住し、絵画制作にいそしみながらも、生活の糧



▲フリオ・ゴンサレス《ダフネ》1937年頃
バレンシア現代美術館蔵
©IVAM, Institut Valencià d'Art Modern



▲ゴンサレスと《鏡の前の女》1937年頃
©IVAM, Institut Valencià d'Art Modern

である金属装飾品の制作・販売を続けました。しかし、1914年に勃発した第一次世界大戦によって装飾品は売れなくなり、自動車部品メーカーでガス溶接見習い工の職につきます。不本意な仕事だったかもしれませんが、ここで習得した技術が、彼を独自の芸術の道に導くのです。

戦後、金属の扱いを熟知しているゴンサレスは鉄を使った彫刻を手がけ始め、ピカソに頼まれて溶接技術を教え、ふたりのコラボレーションも行われました。この一連の体験が、ゴンサレスを大きく飛翔させます。55歳頃から鉄を溶接して空間に絵を描くような鉄彫刻を創作し、その独自の発想は高い評価を得て、彫刻家の地位を確立するのです。しかし、時代は世界恐慌、スペイン内戦と不穏な方向に進み、第二次世界大戦中、彫刻制作もままならない状況の中で、ゴンサレスは65歳の生涯を閉じます。

自然を背景に、彫刻家の人生をたどる

本展では、確かな技術に裏づけられた金工作品、のびやかで遊びどころがある彫刻、材料がない戦時中にくり返した素描など、初期から晩年までの作品が展示されています。担当の塚田美紀学芸員は、「彫刻史を語るうえで重要な作家ですが、その生きざまも見てほしい。時代に翻弄されながらも、ゆっくりと熟成していった人生を感じていただきたい」と語っています。

開館時間 10時～18時(展覧会入場は17時30分まで)
休館日 毎週月曜日(ただし、祝・休日の場合は開館し、翌平日休館)
 年末年始(12月28日[月]～1月4日[月])

ゴンサレスのまとまった作品群をみる機会は日本では40年ぶりです。今回は、展示室の窓をふさがずに、自然光や緑を背景にして作品を鑑賞できるという世田谷美術館ならではの趣向も楽しめます。
 [取材・文：北島章子]

世田谷美術館 開催中～2016年1月31日[日]

スペインの彫刻家フリオ・ゴンサレス
 ——ピカソに鉄彫刻を教えた男

観覧料：一般1,000(800)円、65歳以上、高校・大学生800(600)円
 小・中生500(300)円ほか
 ※()は20名以上の団体料金及びアツカード割引料金
 リピーター割引(会期中)：本展有料チケットの半券のご提示で2回目以降の観覧料が団体料金になります。

関連企画

■ 講演会 I

「フリオ・ゴンサレス、バルセロナ・パリ—新しき造形と都市空間」
 12月13日[日] 14時～15時30分 会場：当館講堂
 講師：木下亮(昭和女子大学教授)
 参加費：無料／定員：当日先着140名
 (13時よりエントランス・ホールにて整理券配布)

■ 講演会 II

「彫刻が生まれるとき—フリオ・ゴンサレスをめぐる」
 1月23日[土] 14時～15時30分 会場：当館講堂
 講師：酒井忠康(当館館長) 聞き手：塚田美紀(本展担当学芸員)
 参加費：無料／定員：当日先着140名
 (13時よりエントランス・ホールで整理券配布)

■ 美術と演劇のワークショップ 「えんげきのえ」

1月10日[日] 13時～18時 会場：当館B1創作室、企画展示室など
 講師：柏木陽(演劇家、NPO法人演劇百貨店代表)
 参加費：10代の方500円、20代以上の方2,000円
 定員：10歳以上の方15名
 申込：当館ホームページまたはお電話にて

■ 100円ワークショップ

「叩け!メタルオーナメント」
 金属ワイヤーで形を作り、叩いて仕上げ、オーナメントにします。
 その場でどなたでも参加できます。
 会期中の毎土曜日 13時～15時 会場：当館B1創作室
 参加費：1回100円 時間中随時受付

美術 Schedule

《世田谷美術館》
 ■ ミュージアムコレクションⅢ：〈それぞれのふたり〉シリーズ「小泉淳作と小林敬生」
 ▶ 12月20日[日]～3月27日[日]
 《向井潤吉アトリエ》 ※改修工事のため12月7日[月]～2月5日[金]は休館
 ■ 向井潤吉 西日本紀行 ▶ 2月6日[土]～3月21日[月・休]
 《清川泰次記念ギャラリー》
 ■ 清川泰次の生活デザイン ▶ 12月19日[土]～3月21日[月・休]
 《宮本三郎記念美術館》
 ■ 画家と写真家のみた戦争—宮本三郎、久永強、向井潤吉、師岡宏次
 ▶ 2月19日[土]～3月21日[月・休]
 ※展覧会に関連した講演会やイベントのほか、コンサート、パフォーマンス、ワークショップや各種講座などを行っています。ホームページ、チラシなどをご覧ください。

ファッション史の愉しみ
 —石山彰ブック・コレクションより—

2016年2月13日[土]～4月10日[日]

観覧料：「フリオ・ゴンサレス展」と同じ

現在、私たちが身につけている洋服は、どのような歴史を辿ってきたのでしょうか？

日本での西洋服飾史研究を牽引し続けた人物に、石山彰氏(1918～2011年)がいます。戦後の日本のファッション・デザインの教育者として知られる石山氏は、洋の東西にわたり万を超える数の服飾史研究の書籍・資料をコレクションしました。

16世紀末から19世紀にかけてのファッションや風俗を伝える版画を綴じてこんだ書籍や雑誌、遠い土地への憧れと結びついた民族服の研究書、20世紀初頭に登場した新時代のファッションを伝えるイラストレーション、さらには、明治時代の日本の洋装化の始まりを今に伝える錦絵。本展では、石山氏が蒐集した貴重な資料約280点とともに、神戸ファッション美術館が所蔵している同時代の衣装と版画を合わせてご紹介します。

16世紀から20世紀にかけての300年ちかくにわたるファッションの歴史をお愉しみください。



▲《クリノリンの幸不幸》1858年頃

第35回 世田谷の書展 —世田谷ゆかりの作家たち—

世田谷区内在住の現代書壇で活躍する書家が、
会派を超えて「世田谷ゆかりの作家たち」をテーマにした新作を一堂に披露する、
世田谷文学館ならではの書展です。

世田谷の書展

◆ 世田谷区内在住書家による ◆
第35回 世田谷の書展 —世田谷ゆかりの作家たち—

「出品予定書家」(五十音順、敬称略)

白倉 仔龍	上田 南邨	稲村 龍谷	稲村 雲洞	泉原 壽巖	石川 昌亭	池亀 壽泉	安東 麟	荒谷 大丘	縣 青石
小林早容子	後藤 俊秋	小久保展代	黒田 石鼓	久村 拓司	久保田青松	川口 青澄	大根田照雲	太川 啓子	卯中恵美子
野口 泰雲	永井 閑翠	戸田 幽翠	坪西 美枝	田中 栄子	竹内 青紗	鈴木 暁山	下坂 華仙	師田 久子	捧 菖扇
渡邊鄧美子	横山喜代子	安岡田鶴子	村井 虹城	丸尾 鎌使	深田 東穂	廣野 皐風	服部 葆竹	野口 白雲	

平成28(2016)年
1月5日(火)～11日(月・祝)

午前10時～午後6時 *入館は午後5時30分まで
*1月11日は月曜日ですが、祝日のため開館

- ◆主 催：公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館
- ◆後 援：世田谷区、世田谷区教育委員会
- ◆観覧料：無料
- ◆会 場：世田谷文学館1F 文学サロン

世田谷文学館
〒157-0062 世田谷区南烏山1-10-10
TEL.03-5374-9111(代)

世田谷の書展 関連講座

- 1月 8日(金) 田中栄子(読売書法会理事)
- 1月10日(日) 川口青澄(読売書法会理事)

各日14:00～15:00、当日会場にお越しください

題字 青山杉雨

第35回 世田谷の書展 —世田谷ゆかりの作家たち—

2016年1月5日[火]～11日[月・祝] 1階文学サロン

観覧料：無料

関連企画 世田谷の書展鑑賞講座

「書」の豊かな楽しみ方を探してみませんか。出品書家と鑑賞しながら、見どころや作品をわかりやすく解説します。書をこれから始めてみたいという初心者の方もお気軽にご参加ください。(各日とも14時～15時。事前申込不要。直接会場へお越しください。)

1月 8日[金] 講師：田中栄子(かな作家・読売書法会理事)

1月10日[日] 講師：川口青澄(漢字かなまじり作家・読売書法会理事)



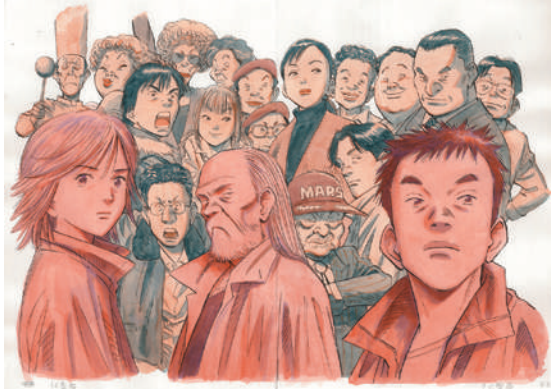
開館時間 10時～18時(展覧会入場及びミュージアムショップの営業は17時30分まで)

休館日 毎週月曜日(ただし、祝・休日の場合は開館し、翌平日休館)
館内整備等(12月21日[月]～1月4日[月])

世田谷文学館

浦沢直樹展 描いて描いて描きまくる 1月16日[土]～3月31日[木]

凄まじい原稿量、圧倒的な画力、比類なき物語性——現役漫画家の最高峰・浦沢直樹のペン先のすべてがここに!



『20世紀少年』©浦沢直樹・スタジオナッツ/小学館



『Happy!』
©浦沢直樹・スタジオナッツ/小学館



『YAWARA!』
©浦沢直樹・スタジオナッツ/小学館

鬼才・浦沢直樹。『パイナップルARMY』『YAWARA!』『MASTERキートン』『Happy!』『MONSTER』『20世紀少年』『PLUTO』『BILLY BAT』—発表してきた作品すべてを「代表作」と呼べる、稀代のヒットメーカーである。本展では、単行本一冊丸ごと分の原稿展示をはじめ、ストーリーの構想メモ、ネーム、秘蔵のイラストやスケッチ、少年時代の漫画ノートまで、浦沢直樹のペン先の熱量に触れることができる膨大な手稿を公開する。「描いて描いて描きまくる」浦沢直樹の創作の全貌を、是非目撃していただきたい。

浦沢直樹展 描いて描いて描きまくる

1月16日[土]～3月31日[木] 2階展示室

観覧料：一般 800(640)円、65歳以上、高校・大学生 600(480)円、
小・中学生 300(240)円ほか

※()は20名以上の団体料金及びアツカード割引料金
※1月22日[金]は65歳以上無料
※1月5日[火]よりローソンチケット(全国ローソン・ミニストップ)で前売り券を発売
Lコード：31111[土日祝日券(日時指定券)]・32222[平日券]
問合せ：ローソンチケット TEL 0570-000-777 <http://l-tike.com>
*当館での前売り券販売は行っておりません。

会期中の関連企画については、ホームページ、チラシなどをご覧ください。

コレクション展 「戦後70年と作家たちⅡ」 開催中～4月3日[日]

人は変らない。そして、おそらく人間のひき起すことも。

山田風太郎 『戦中派不戦日記』

長く続いた戦争の時代が終結して70年が過ぎました。本土空襲、広島・長崎への原爆投下、終戦、そして連合国軍による占領下へと、死と隣り合わせの極限状況から、あらゆる価値観が激変していく混沌の日々を、作家たちはどのように見、生き、再生への道のりへと向かったのでしょうか。

終戦と戦後を描いた作家たちの資料を、当館所蔵品からご紹介します。

コレクション展 戦後70年と作家たちⅡ

開催中～4月3日[日]

観覧料：一般 200(160)円、高校・大学生 150(120)円、65歳以上、
小・中学生 100(80)円ほか

※()は20名以上の団体料金及びアツカード割引料金
※土曜・日曜・祝日は小・中学生無料
※浦沢直樹展会期中に限り、同展チケットで観覧できます
※1月22日[金]は65歳以上無料



イラストレーション：今日マチ子

※このほかにも様々なプログラムを行っています。ホームページ、チラシなどをご覧ください。

「穴アーカイブ：an-archive」——世田谷の8ミリフィルムにさぐる

穴からみえる、ひと、くらし、世田谷

市井の人々による「記録」と「記憶」の価値を探究する。そんなアーカイブ・プロジェクトが、世田谷を舞台として始まっています。その名も「穴アーカイブ：an-archive」。何の穴？ 何故に穴？ はてさて、いったいどのような試みなのでしょうか。

その一端を企画者をご紹介します。

埋もれた記録に光をあてる

映像で記録を残すこと——。現在では「当たり前」になっているこの営みは、いつから始まったのでしょうか。スマートフォンやビデオカメラが生まれるはるか昔、はじめて一般向けに普及する映像メディアが登場しました。昭和30～50年代にかけてひろく市販された「8ミリフィルム」という記録物です。今から遡ることおよそ60年前の出来事です。

8ミリフィルムを手に入れた人々は、家族、旅行、地域行事、趣味など、思い思いの被写体にカメラを向けていきました。一部の富裕層や趣味人が飛びついた昭和30年代。高品質化・低価格化が実現し、爆発的に流行した40年代。他のメディアに席卷され、急速に廃れた50年代。その時代ごと、その場所ごとの「人」「暮らし」「街並み」が、撮影者の個々の視点から記録されていきました。

しかし、その多くは再生の環境を失い、自宅の押し入れに眠ったままになっています。8ミリフィルムは、今まさに劣化・散逸の



学生ファシリテータと談笑する参加者

危機に直面しているのです。穴アーカイブは、それらを「戦後日本の生活文化を映した貴重な動的資料」と位置づけ、収集・公開・保存・活用する取り組みとして構想されました。

記録の「穴」からみえるもの

8ミリフィルムにはパーフォレーションという穴が空いています。穴アーカイブは、この小さな事実に着目しました。記録媒体には、記録できない部分があるのです。しかし、人間の「記憶」や「想像力／創造力」を持ち寄れば、記録不在の部分に「情報」を書き込む、あるいは、不在の部分から読み取ることができるのではないか。記録することを、記録の不在＝「穴」から見つめ直す。この発想が、穴アーカイブの中心にあるのです。



協働者である日本大学後藤範章研究室の学生の皆さんが、提供者の語りを引き出す



提供者に先導されながら、記憶の地図を歩く



昭和44年5月 三軒茶屋(東急玉川線、世田谷線)

2015年初夏から本格的に動き出した穴アーカイブ。最初に着手したのが映像の収集です。押し入れに眠るフィルムをひろく募り、ご家族や関係者を囲む上映会を行いました。スタッフは、スクリーンに映しだされた映像の<記録>だけでなく、フィルム提供者の<記憶>をもできるだけ丁寧に拾い上げます。あらかじめ用意された地図に、伺った出来事やエピソードを書き込んでいくと、記憶の地図が出来上がっていききました。

「バスの運転手として、移り行く世田谷の街並みを長い間、運転席から定点観測していた」「建設業に従事していた両親が、区内の井戸の大半を手がけたんじゃないか。高校生だった私の役目は、ヨイトマケを唄うおばさんを集めてくること」……。約4ヶ月に及んだフィルム収集。15名の方からご提供いただいたフィルムやそれにまつわる語りは、どれも興味深いものでした。

誰かの記録が、他の誰かの記憶になる

収集の次に取り組んだのが、映像の公開。デジタル化した6時間のうち、その一部を今秋にお披露目しました。「オリンピックの開会式——自宅のテレビで観たのはモノクロの五輪。2階の窓から見えたのはカラーの五輪」。「渋谷から自宅の砧まで、よくタクシーで帰りました。窓を開けていると、途中から草木の香りがしはじめるの。ああ家に帰ってきたという感じ」。100名ほどの来場者に恵まれた会場は、随所で大きな盛り上がりを見せていました。

一つの映像に対していくつもの異なる見え方が現れる。鑑賞会にはそんな豊かさが宿っています。記録の穴を記憶や想像力

で埋めることで、映像に残らなかった風景を「再生」させる。それは提供者、参加者、スタッフの共同作業と言えるのかもかもしれません。「私の撮った映像なんて、大したことないのに」。鑑賞会が始まる前、提供者は必ずと言ってよいほど、こうつぶやかれます。しかし、他者の視点の介在によって、映像の潜在的価値は、いつの間にかスルスルと引き出されていくのです。この時、映像は提供者だけのものではなく、観る者すべての共有財となっているのではないのでしょうか。

穴アーカイブは、記録やその記録には「記録されていない」部分を手がかりに、自分の記憶や想像力を活性化させる「装置」として機能します。言い換えれば、自分自身が書き込み可能、読み込み可能な「メディア」であることを発見、再発見する場所です。——記録の穴から覗いてみれば、見えないものが見えてくる——。記録・再生装置としての「あなた」に光を当てる、いや、あなた自身が光になる、それが穴アーカイブの試みなのです。

[寄稿：松本篤(「穴アーカイブ」企画者)]

いかがでしたか。穴アーカイブは、来年度も継続します。フィルムの募集(とくに昭和30年代)や、サポーター組織「せたがやアカカブの会」会員の募集も引き続き行っています。ご関心のある方は、生活工房(TEL.03-5432-1543)までお気軽にお問い合わせください。



提供者の語りが媒介となって、会場の参加者の語りが引き出される

松本 篤(まつもとあつし) : remoメンバー、AHA! 世話人、研究者。1981年兵庫県生まれ。2003年より、「文房具としての映像」をコンセプトに、もう一つのメディアを实践・研究するNPO法人記録と表現とメディアのための組織(remo)の運営に参加。05年より同法人の事業の一つとして、市井の人々による「記録」や「記憶」の潜在的な価値を探究するアーカイブ・プロジェクト。AHA!(アハ!)を始動させ、現在に至る。目下、東京大学大学院学際情報学府博士課程(丹羽美之研究室)に所属し、「コミュニティ・アーカイブ」のメディア・デザインを研究中。『フィールド映像術』(古今書院/共著/2015)、『のこすことのおそびかたノコノコスコープのイロハ』(東京文化発信プロジェクト室/編著・共訳/2014)などがある。来春、武蔵野市立吉祥寺美術館において開催される『カンパセーション_ピース』展にAHA!として参加予定。
http://www.remo.or.jp

生活デザイン Schedule

- 「坂 茂 一紙の建築と災害支援」展 ▶ 開催中～12月20日[日]
- 「WASHINOITO —未来を着る、浜井弘治の和紙のプロダクト」展 ▶ 12月26日[土]～1月24日[日]
- 「三軒茶屋 三角地帯 考現学」展 ▶ 1月30日[土]～2月28日[日]
- 「時間をめぐる、めぐる時間の展覧会」▶ 3月5日[土]～21日[月・休]

※このほかにも様々なプログラムを行っています。ホームページ、チラシなどをご覧ください。

打楽器音楽の可能性を追求する會田瑞樹

次代の文化・芸術分野を担う若手アーティストが飛躍する機会をつくるため、創作支援金を交付し、発表の場を提供する「世田谷区芸術アワード“飛翔”」。打楽器奏者の會田瑞樹は、第4回アワードにおいて音楽部門で受賞、その受賞記念公演「末吉保雄作品個展 一内に秘めたる声を求めて」が2016年3月24日、成城ホールで開催されます。

ソロのパーカッショニストへの道

打楽器の新たな魅力を開拓し、現在注目を集める會田瑞樹のパーカッショニストとしての原点は小学校のときの鼓笛隊にあった。

「鼓笛隊でスネアドラムに出会ったことと、レベッカ、ザ・ビートルズ、クイーンなどのバンドが大好きでドラムってカッコいいなと小さい頃から思っていたので、自然と打楽器に惹かれました。中学校の吹奏楽部では音楽室を占領し、いろんな楽器を並べて好き放題やっていたのですが、中学3年のときに仙台フィルハーモニー管弦楽団でスネアドラムを中心に演奏されている佐々木祥先生と出会い、基礎を叩きこんでいただきました」

高校生のときには、オーケストラではなく、ソロのパーカッショニストとして活動していくイメージがすでに固まっていた。

「吉原すみれ先生、ツトム・ヤマシタさんのそれぞれのCDを聴き、すみれ先生は太鼓だけですばらしい音楽ができるということを示してくれましたし、ツトム・ヤマシタさんはさまざまな楽器を鳴らして語りかける、お芝居のような音楽があることを教えてくだ

さいました。こんな世界があったのか、じゃあ僕もそんな演奏家を目指そうと気持ちが固まったのです。ソロでやるなんて突拍子もないことをと自分でも最初は思っていたのですが、当時から座右の銘は“あきらめないこと”でしたし、今も日々練習をしながら自分を鼓舞しています。まさに太鼓ですし(笑)」

現代作曲家と共に創作に携わる

會田ならではの試みは、現代の作曲家と共に活動していることだろう。

「武蔵野音楽大学ですみれ先生から学ぶ機会を得て、先生と一緒に仕事をしてきた作曲家のレパートリーを教わったことが今の僕の礎になっています。現代を生きている僕は、同時代の作曲家と積極的に触れたいと考えています。作曲家の方々も、打楽器を使うならこういう表現をしたいとそれぞれに考えをお持ちですし、さまざまな作曲家に曲を書いてもらうことで、打楽器の魅力がより多くの人に伝わる契機になると思っています。この作曲家が打楽器と出会ったらこういうことをやってくれるかもしれないとイメージを膨らませた上で、楽器を指定してお願いすることもあるし、たとえば対位法(フーガ)など、特定の技法を使った曲を書いてほしいとオーダーすることもあります。作曲家の世代によって背負っているものも音楽に対する思いも違うので、まるで現代史をみているようですし、演奏会では作曲家の世代がさまざまになるようにこだわっています」

3月24日の受賞記念公演では、世田谷区に縁のある作曲家・末吉保雄氏の作品7曲が披露される予定だ。

「末吉先生は世田谷を拠点に何十年も創作活動を行っていらっしゃるのですが、笛や太鼓、声楽など、限定した手法にこだわって作曲されています。今回はそれらの編成に絞った曲目で挑もうと思っています。“スネアドラム・ソロによるエチュード(仮題)”は今回初演となる作品ですが、僕自身が初めて独奏を披露した楽器がスネアドラムなので、原点に還りたいという気持ちもあり、末吉先生にスネアドラム独奏でと依頼させていただきました」

會田瑞樹 あいた・みずき

1988年生まれ。幼少よりヴァイオリンの手ほどきを受け、12歳より打楽器をはじめ。武蔵野音楽大学ヴィルトゥオーソ学科を経て同大学院修士課程修了。打楽器、マリンバを吉原すみれ、神谷百子、佐々木祥、星律子、有賀誠門、藤本隆文の各氏に師事。2011年に高橋美智子氏よりヴィブラフォンを譲り受け、それを契機にヴィブラフォンの魅力の更なる開拓を求める。多くの作曲家が會田のために作曲した作品は独奏曲、協奏曲、室内楽曲を含め、2015年12月の時点で100作品を超える。多岐にわたる音楽活動を背景に第4回世田谷区芸術アワード“飛翔”音楽部門を受賞。打楽器音楽の魅力を発信し続けている。



古典作品に“新しさ”を発見

2010年に始まり、15年12月17日東京文化会館小ホールでのリサイタルで、新作初演のレパートリー数はついに100作品となる。

「打楽器はさまざまな可能性を秘めているのだということ、僕のほうが楽器や、作曲家から気づかせてもらっています。こんな音も出るのか、こんな表現もあるのかということをいろいろな方々に知ってもらいたいので、ぜひ演奏会でさまざまな楽器達の生の“音”を体感していただきたいです」

今後も貪欲に打楽器の可能性を広げつつ、古典作品にも挑みたいという。

「自分が持っている“音の言葉”でもう一度古典の作曲家に触れてみると、彼らも想像以上に“新しいこと”をやっているのではないかと気づくことができました。古典をたずねることで音楽表現の幅が広がり、今後もっとおもしろいことができるようになるのではないかと期待しています。モーツァルト作曲のグラスハーモニカのための作品があるのですが、音域がヴィブラフォンと同じで、来年はその作品を中心とした演奏会をやってみようかと企んでいます。現代の作曲家との出会いも継続しつつ、将来的には日本人の作曲家の作品を海外に紹介する活動もできたらいいなと思っています」

[取材・文：権田アスカ] [撮影：小林由恵]



第4回世田谷区芸術アワード“飛翔”音楽部門受賞記念公演 末吉保雄作品個展 一内に秘めたる声を探求めて—

3月24日[木]19時 成城ホール

【出】 會田瑞樹(打楽器) 末吉保雄(作曲・ピアノ) ほか

一般 前売 3,000円 当日 3,500円

学生 前売 1,000円 当日 1,500円 (全席自由)

♿ ※未就学児入場不可

音楽事業部 Schedule

■ せたがや名曲コンサート「モーツァルト レクイエム」▶ 1月31日[日]

■ 宮川彬良のせたがや音楽研究所 #5 ▶ 2月20日[土]

■ 第4回せたがやバンドバトル決勝大会 ▶ 2月21日[日]

詳しくは P17



せたがやジュニアオーケストラ(SJO)通信

Vol.5

夏のコンサート以降、学校行事など多数のイベントが忙しいメンバーですが、毎週日曜日には元気いっぱいの笑顔を見せてくれます。

この春から練習時間を変更し、これまで2コマに分けて行っていた練習を、1コマで実施しています。なかなか顔を合わせる時間のなかったこれまでよりも交流する時間が増え、もう一つの学校のような雰囲気がつくられるようになりました。月に1度のリーダー会議では、SJOをより良くするため、

メンバーが課題に向き合い、話し合う場も生まれています。

オーケストラは小さな社会。誰かを思いやる心、何かに気付く心、反省する心……様々な課題の中から、そういったものを感じ、皆で共有し、少しずつ成長していくことがメンバー一人ひとりを、そしてSJO全体を豊かにしていきます。

まだまだ成長過程のSJO。今しか味わえない“2015年のSJO”を聴きに、第6回定期演奏会にも是非お越しください。



第6回せたがやジュニアオーケストラ定期演奏会 12月20日[日] 15時 世田谷区民会館

【指揮】 田中祐子

【曲】 シューベルト：交響曲「未完成」ほか

【一般】 1,000円

♿ ※3歳未満入場不可

COMMUNITY PROGRAM コミュニティプログラム

世田谷美術館 美術大学

アート・ライフ、始めませんか？

秋の木曜日、世田谷美術館の地下の創作室で、自画像を描く実技講座が行われていました。

「この授業は上手く絵を描くことが目的ではありません。既成概念をとりはらって、新しい何かを発見するための方法なのです。今日は、自分の横顔を描いてみましょう。横顔のことを英語でプロフィールと言いますが、自分の横顔を知らないのは、実は自分だけです。まっさらな眼で観察し、“こうでありたい自分の願望”や、“目鼻口、頭はこういうものだ”といった思い込みから脱却してください」

講師の三宅一樹氏(彫刻家)の話聞いたあと、20人の受講生は鏡を使って、それぞれ自分の横顔を描き始めました。別の創作室では20人が自分の手を木彫で制作中。また、別の20人はさらに小グループに分かれて短い映画を撮影していました。

これは世田谷美術館が開いている年間講座「美術大学」のある一日です。約半年間、週に2日、みっちりアートを学び、実践する内容の濃い講座で、1987年から毎年開講しています。絵画・彫刻・映画・銅版画などの実技、美術史、芸術学などの講義、鑑賞会と、幅広いカリキュラムを組んでいるので、さまざまな体験ができるのです。



▲「映画」の実技

昨年修了した27期生で、今はスタッフとして美術大学を手伝っているSさんは、ここで初めて創作する楽しさを体験しました。「鉛筆の握り方から教えてもらったので、不安はありませんでした。芸術に親しんだだけでなく、



◀「美術史」の講義



▲鏡を使って自画像を描く受講生
[撮影:小林由恵]

同期の人たちと仲よくなったのも大きいです。講座が終わったあとも、集まってグループ展を開いたり、美術館でボランティアをしたりと、次の展開を楽しんでいます」と語っています。

美術大学は、ただ知識を学び、技術を身に付ける場ではなく、「美術」をキーワードに人と人が交流する場となっています。そして、修了したからといって終わりにはなりません。美術とは何だろう?と生質問い続けるスタートラインに立つのがこの講座の目的なのです。

【世田谷美術館美術大学29期生募集】

美術大学とは、世田谷美術館の機能をフルに活用し、講義、実技、鑑賞を組み合わせ、理論と体験により、実感できる総合的な美術講座です。平成28年度は講義23回、実技23回を予定しています。

アートとは何か?半年間、仲間と共にじっくり考えてみませんか?

日程 5月から12月(8月は休講)までの火曜日と木曜日

10時30分～16時30分

対象 18歳以上の区内在住、在勤(学)者、または美術館友の会員で原則として全課程受講可能な方

受講料 60,000円(年額、教材費含む)／抽選60名

申込 3月1日～31日の期間に所定の申込書(当館HPからプリントアウト、または2月中旬より美術館にて配布)にて美術館美術大学事務局まで。申込書を郵送でご希望の方は82円切手を同封の上、美術館美術大学事務局まで郵送してください。

世田谷パブリックシアター せたがやこどもプロジェクト2015 おどるマンガ『鳥獣戯画』

演劇ワークショップを通じ、 こども達の感性に出会う

「せたがやこどもプロジェクト」は、公演とワークショップとのリンクがコンセプトにあります。つまり開館以来「こどもの劇場」が唱えてきた“来て、観て、遊ぼう”です。

『鳥獣戯画』も具体的な内容が決まる前から、演劇ワークショップを通してこども達の感性と出会う機会を持つ事決めました。これは2014年のコンドルズによる『GIGANT～ギガント～』のオープニングアクトワークショップでも同様で、こども

達のパワーと好奇心を共有する場としての位置づけです。ワークショップを経て、演出のスズキ拓朗さんから「大勢のこども達と一緒に作品を創りたい」「今までやった事のない事にトライしたい」と提案がありました。その希望を具体的に落とし込んだ結果が「ワークショップを経て作品に参加する」と「当日観にきて参加できる」仕掛けです。ワークショップでは大人と同じような演劇体験をしました。簡単なものはエア一



「Let's Sing ゴスペル!」ワークショップ

歌う人も聴いている人も元気になれる

「Let's Sing ゴスペル!」は、世田谷区の方々へコンサートに来てもらうだけでなく、参加してもらう機会を増やし、音楽で世田谷を元気にしようと立ち上げられたワークショップ。世田谷区内在住・在学・在勤の中学生以上であれば誰でも挑戦でき、車椅子の方も参加できるバリアフリーの企画です。

映画やミュージカルの影響で前からゴスペルに興味があった。

クラシックコンサートの合唱曲はハードルが高そうだけど、

リズムに乗れるゴスペルならもっと気軽に楽しめそう。

歌うことが大好きだけどステージに立つ機会がない。

初めてのゴスペルのワークショップには、そんな思いを胸に抱いていた方々から定員の3倍にもなる応募をいただきました。

ゴスペルシンガーの第一人者であるBIG MAMA YUKAと呼ばれる亀淵友香先生監修・指導のもと、猪狩太志さん、のほらヒロコさんを講師に迎え、40名のチーム2組がそれぞれ全4回のワークショップに参加。12月5日には、北沢タウンホールで練習の成果を発揮するコンサートが開催され、プロの方々と同じステージに立てるとあって、ワークショップは真剣そのものです。

柔軟運動のあと、口がよく動くようにあごもマッサージ。コン



▲ 自然に体が動き出します

サートでは各チーム3曲とチーム合同曲1曲を披露するため、まずは前回のおさらいから始まり、その後新しい曲「Angels We Have Heard On High」を練習。英語の歌詞を読み上げて世界観を理解し、次に主旋律をゆっくり歌って曲全体を把握したあと、パートにわけて少しずつ先へ進めていきます。

「開始音をはっきり出しましょう」「下がる音を大切に」「全員が同じ調子だと声がつぶれて聴こえるので、テノールは待たせ、ソプラノはやさしい天使のように、アルトはお母さん天使のように」など、亀淵先生がユーモアをまじえたわかりやすい言葉でアドバイス。すると、まるで暗示にかけられたように、クワイアがみるみる上達していきます。「気持ちが入ってきましたね!」「ちゃんとできていますよ、自信を持って!」と、講師の方からも励ましの声。幅広い世代の男女が、自然と体を揺らし、ステップを踏みながら歌う喜びを実感。1時間半の練習時間もあっという間、みなさんの笑顔が絶えません。

「音楽には、歌う人も聴いている人も元気になれるという相乗効果があります。ワークショップクワイアの方々の前向きな気持ちが伝わって、世田谷が明るく、いい世の中になればいいなと思っています。今後も、ぜひいろいろな方に気軽にゴスペルを歌ってほしいですね」と亀淵先生。このワークショップ、コンサートを機に、ゴスペルの人気が広まりそうです。

[取材・文：権田アスカ] [撮影：小林由恵]



▲ 本番のステージでは暗譜です!



▲ 亀淵友香先生からの的確なアドバイス



縄跳びやジェスチャー伝言ゲーム。複雑なものは、10人一組になり番号を引きます。番号が若い順に偉い人という決まり

ですが、他の人の番号は分かりません。「ある会議に集まった人たち」という設定の中で、自分は何番かを観ている人に当ててもらおうというものです。これはとても高度な演劇的想像力が必要で、大人なら難しいと消極的になってしまいがちですが、子ども達はとても面白がって喜々として取り組んでいました。

子どもが面白いと思う事が大人が面白くないわけがないというのがスズキさんの信念で、参加してくれた子ども達のお蔭で、キラキラ光り輝くような作品に仕上がりました。

[舞台写真『鳥獣戯画』2015年8月5～9日 撮影：引地信彦]

※ こどもの劇場

1997年～2012年まで続いた、大人も子どもも楽しめる、ジャンルを超えた舞台芸術を上演するシリーズ。『ペトルーシュカ』(勅使川原三郎+KARAS)、『くるみ割り人形』(イデビアン・クルー)などクラシックバレエをもとにした作品や、『にんぎょひめ』(脚本・演出：テレーサ・ルドヴィコ)などの童話をもとにした作品など。

世田谷パブリックシアター

世田谷パブリックシアター芸術監督企画

現代能楽集Ⅷ『道玄坂綺譚』 三島由紀夫 近代能楽集「卒都婆小町」「熊野」より MANSAI◎解体新書 その式拾伍『解析』～伝統芸能×テクノロジー～

今秋は、野村萬齋芸術監督が就任以来育ててきた二つの企画が、またその充実した内容を更新した。

一つは古典の洗練と知恵に現代演劇の劇作・演出家・俳優を会わせ、その創作に新たな可能性を見出すシリーズ・現代能楽集。2003年の開始以来8作目となる『道玄坂綺譚』は、劇作家・演出家マキノノゾミの当劇場企画制作作品への初参加作でもある。

謡曲、能・狂言とどう距離をとり、アレンジするかが、つくり手に問われるのが今企画の醍醐味と難しさ。マキノは三島由紀夫の『近代能楽集』から「卒塔婆小町」と「熊野」を本歌取りしつつ、原作の謡曲へも眼差しを向け、同時に高齢者や若者が直面する貧困問題など、現代的な切り口も織り込んだ多層的な作品をつくり上げた。

都心のネットカフェを基点に、昭和初期と思われる潇洒な屋敷、近未来の超高層マンション、戦後の映画撮影所と劇世界は自在に往還。映像作家ながらネットカフェでバイトをするキーチが謎の老女、同じカフェに寝泊りする少女ユヤ、彼女を庇護しようと名乗り出る宗盛。4人を柱に目まぐるしく転じる場面や、転換にかかる



現代能楽集Ⅷ『道玄坂綺譚』 2015年11月8日～21日 作・演出：マキノノゾミ ©細野晋司

ポップな音楽が否応なく観客を物語に巻き込み、無常観と希望が交錯する不思議なラストへと誘う。

ストーリーテラーとして定評のあるマキノの筆の強さ、その豪腕が企画を我が物とし、独自の劇世界の創造に成功した舞台だった。

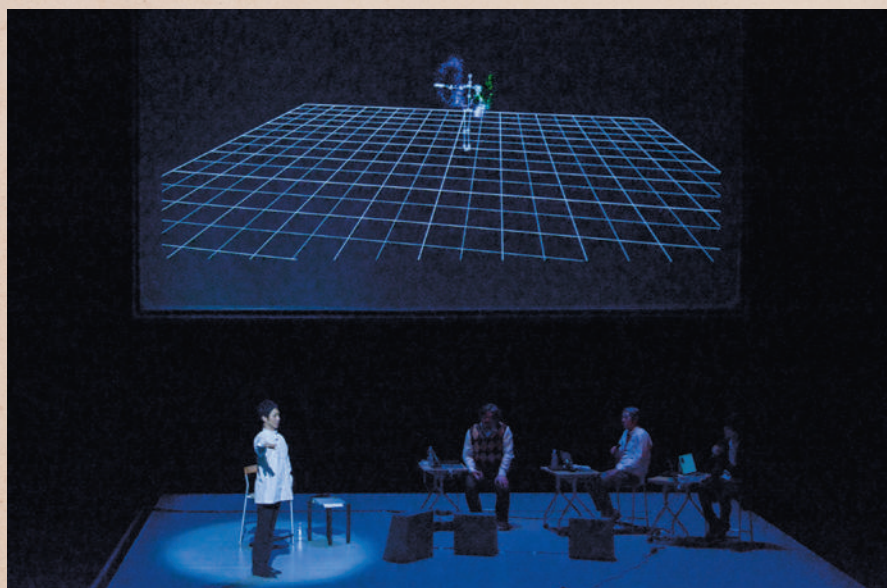
一方、先んじて9月30日に行われた

「MANSAI◎解体新書」も今回で25回。多彩なゲストと萬齋が互いの専門分野に関する知識、技術を駆使し、演劇に留まらぬ“表現の本質”を探るトークは、毎回満席の盛況を誇っている。

今回は電通の菅野薫、NHKの森内大輔、真鍋大度率いるライゾマティクスリサーチの登本悠介をゲストに迎え、肉眼では見ることのできないアスリートの高速の動きや軌跡、F1レーサーの走行音などを可視化することから生まれる“新たな表現域”について、豊富な映像とともに解説。会場では、萬齋の型や所作をリアルタイムでデータに取り込み画像化するデモンストレーションも行った。また、型をデータ化し蓄積することに興味津々の萬齋に対し、データ収集するほどに“表現者の間や息、気など再現できないことの多さに気づかされる”と言った菅野の言葉も印象深い。

古典芸能者を芸術監督とする劇場だからこそ実現可能な、意義深い企画であることを再認識できる内容だった。

[文・大堀久美子]



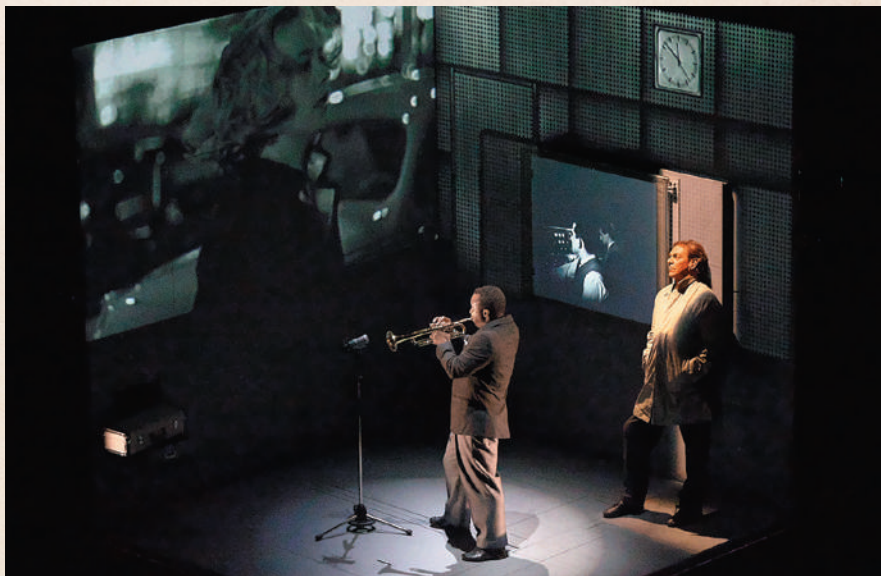
MANSAI◎解体新書 その式拾伍『解析』～伝統×テクノロジー～ 2015年9月30日

世界で絶賛された二作品が世田谷へ

創造発信型の公共劇場の先駆けである世田谷パブリックシアターは、1997年の開館以来、海外のトップアーティストによる刺激的な作品を招聘してきました。今秋上演された『Needles and Opium 針とアヘン〜マイルス・デイヴィスとジャン・コクトーの幻影〜』（2015年10月9日〜12日）、『ミュルミュル ミュール』（同10月16日〜18日）は、いずれも世界各国で高い評価を得た作品であり、満を持しての初来日となりました。

“映像の魔術師”とも謳われるロバール・ルパージュは、映像表現を巧みに演劇に取り入れ、舞台芸術の新たな境地を拓いた人物です。この度上演された『Needles and Opium 針とアヘン』は、ルパージュの代表作である『Needles and Opium』（93年来日）の完全リニューアル版です。元々は1人芝居だった同作が、最新テクノロジーを駆使した2人芝居として甦りました。

モチーフとなるのは、伝説のジャズ・トランペッターであるマイルス・デイヴィスと、多方面で活躍した万能の芸術家ジャン・コクトー。劇中では、彼らが活躍した1949年と現在を行き来しながら、現代のあるカナダ人男性の傷ついた心象風景をスペクタクルとして描き出します。



『Needles and Opium 針とアヘン〜マイルス・デイヴィスとジャン・コクトーの幻影〜』 ©青木 司

男性の苦悩を表すように、時間軸とともに空間も目まぐるしく変化します。三方の壁から成る箱型の装置は、大きく傾き、回転し、壁に映し出される映像によってホテル、録音ブース、都会の雑踏、そして星空へと変容します。精密な映像技術には、初演から20年の間に発展したデジタルテクノロジーが存分に活かされています。一方、映像に合わせて絶妙なタイミングで小道具を動かしているのは、驚くことに舞台裏にいる大勢の技術スタッフたちです。まさに、“昔ながらの演劇の仕掛けから最新デジタルの妙技までもが共に作用する、彼の作品にしかないテクノロジーの使い方”（英・テレグラフ紙）が堪能できる、“ルパージュ・マジック”の真骨頂ともいえる舞台でした。カーテンコールでは俳優とともに技術スタッフも舞台に登場し、惜しみない拍手が送られました。

*

翌週上演された『ミュルミュル ミュール』は、フランスの現代サーカス“ヌーヴォー・シルク”を築き上げたアーティストであるヴィクトリア・ティエレ＝チャップリン（構想・演出）と、娘オーレリア・ティエレ（出演）による、演劇・ダンス・サーカス等様々な要素を取り入れた新感覚のパフォーマンスです。

物語は、取り壊しの決まった古いアパー

トに住む女性オーレリアが引越準備をしているところから始まります。散らかったダンボールをふと覗くと、そこには見たこともない不思議な世界が広がっていて……。謎の男から逃げまわらううちに、彼女は奇妙な生き物たちに次々と出会います。

オーレリアが会おう生き物たちはかわいらしいだけでなく、異形の不気味さもあり、不思議と包み込むような力強さも持ち合わせています。彼らは時に彼女を抱きしめ、共にダンスを踊ります。ただそこにあるガラクタがオーレリアと触れ合うことによって、そして私たちの想像力によって生命を持ち、時にロマンチックにさえ感じられる駆け引きをつくりだす様は、多くの舞台ファンの心をつかんだに違いありません。

本作はまた、国内外からのアーティスト約50組が三軒茶屋の街に集う大道芸フェスティバル「世田谷アートタウン 2015『三茶de大道芸』」（10月17日・18日）の関連企画として上演され、劇場の内外が非日常の多幸感に包まれた週末となりました。

これからも世田谷パブリックシアターでは、“世田谷から世界へ”と発信を続けるべく、海外カンパニーとの共同制作や、良質な海外作品の招聘公演を続けてまいります。是非、劇場に足を運び、言葉や文化を超えて響く感動を体感してください。



『ミュルミュル ミュール』 ©R.Haughton

* THEATRE

『同じ夢』 2月5日[金]～21日[日]
シアタートラム

赤堀雅秋による濃密な人間ドラマが渦巻く新作が、シアタートラムに放たれる！これ以上ない豪華出演陣が赤堀の元に集結！！

〔作・演出〕 赤堀雅秋
〔出〕 光石研 麻生久美子 大森南朋
木下あかり 赤堀雅秋 田中哲司



2月	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
13:00									●	■							●
14:00																	
15:00		●	●		休	●	●					休	●	●			
18:00					演				●			演					●
19:00	●			●				●			●			●	●		

■14日[日]13時、視覚障害者のための舞台説明会あり(要予約)

一般 6,800円 友 6,300円
U24 高校生以下 3,400円 [12月13日より一般発売]
※未就学児入場不可

詳しくは P1

爆笑寄席●てやん亭2016

『林家正蔵・古今亭菊之丞二人会 ～これからの噺家と落語界～』
2月11日[木・祝] 14時 世田谷パブリックシアター



林家正蔵 古今亭菊之丞

劇場で本格落語を楽しめる人気公演を2016年も開催。テレビでも活躍の正蔵師匠と、古典落語を得意とする人気中堅噺家の菊之丞師匠が二人会に対決します。

〔席亭・プロデュース・解説〕 花井伸夫
〔出〕 林家正蔵 古今亭菊之丞
母心 林家たま平

一般 4,000円 友 3,500円
U24 高校生以下 2,000円 [12月12日より一般発売] ※未就学児入場不可

第4回世田谷区芸術アワード「飛翔」舞台芸術部門受賞記念公演
シアタートラム ネクスト・ジェネレーション vol.8

開幕ペナントレース『ROMEO and TOILET』
2月25日[木]～28日[日] シアタートラム

若い才能を発掘・育成する「シアタートラムネクスト・ジェネレーション」シリーズ第8弾。エネルギッシュな新星劇団が登場します。

〔脚本・演出・美術〕 村井雄
〔出〕 高崎拓郎 G.K.Masayuki ほか

一般 3,000円 友 2,500円
U24 高校生以下 1,500円
(全席自由・整理番号付/オールスタンディング)

[1月11日より一般発売]
※未就学児入場不可

詳しくは P4



[撮影：池村隆司]

2月	25	26	27	28
	木	金	土	日
14:00			●	●
15:00		●		
18:00			●	●
20:00	●	●		

*=ポストトーク開催予定
(村井雄とゲスト(ゲストは当日発表))

『原色衝動』 2月26日[金]19時30分・27日[土]15時
世田谷パブリックシアター

日韓を牽引する二人の同世代ダンサーが、写真家・アラーキーの世界に挑む！国境、ジャンルを超えたコラボレーションにご期待ください。

〔振付・構成・出〕 白井剛 キム・ソンヨン
〔映像写真〕 荒木経惟「往生写真集―東ノ空・PARADISE」より



[撮影：荒木経惟]

一般 4,000円 ペア 7,000円(前売のみ)
友 3,500円 U24 2,000円 高校生以下 1,500円
※未就学児入場不可

詳しくは P3

* MUSIC

せたがや名曲コンサート
モーツァルト「レクイエム」

1月31日[日] 14時 昭和女子大学人見記念講堂

世田谷区で長く活動する2つの音楽団体が、プロの演奏家と共演します。

〔出〕 新通英洋(指揮) 世田谷フィルハーモニー管弦楽団
世田谷区民合唱団 ほか
〔曲〕 モーツァルト：レクイエム 二短調K.626 ほか

一般 S席 2,500円 A席 1,000円 友 2,000円(S席のみ)
※未就学児入場不可



宮川彬良のせたがや音楽研究所 #5
2月20日[土] 17時 世田谷区民会館

アキラ所長が音楽のあれやこれやを独自の視点で大分析！

〔出〕 宮川彬良(作曲家・舞台音楽家)
INSPI(アカペラ・ヴォーカル・グループ)
ほか

一般 3,000円 友 2,500円
※未就学児入場不可



宮川彬良
©Mikako Ishiguro



INSPI

第4回せたがやバンドバトル決勝大会
2月21日[日] 15時 世田谷区民会館

大勢の聴衆を前に熱いバトルを繰り広げます。年々パワーアップする出演者&パフォーマンスに乞うご期待！

〔出〕 予選を勝ち抜いた10バンド+敗者復活の2バンド
〔審査員〕 湯川れい子(音楽評論家) ほか
〔ゲスト演奏〕 木根尚登(TMネットワーク)

一般 前売 800円 当日 1,000円(全席自由) ※未就学児入場不可



チケットの購入方法 (年末年始12/29～1/3除く 年中無休)

世田谷パブリックシアターチケットセンター 世田谷パブリックシアター/シアタートラムと音楽事業部の公演チケットを取り扱っています



電話予約 (10時～19時)
03-5432-1515



窓口 (10時～19時)
キャロットタワー5階



オンライン
(要事前登録・登録料無料)
(年中無休・24時間対応)
PC → <http://setagaya-pt.jp/>
携帯 → <http://setagaya-pt.jp/m/>

チケット料金はすべて税込

友 せたがやアーツカード会員(前売のみ) 詳しくは P18

友 世田谷パブリックシアター友の会会員(前売のみ) 詳しくは P18

U24 18歳から24歳対象(要事前登録・前売のみ)

高校生以下 購入時要年齢確認

車椅子スペース(定員有り、前日19時までにはチケットセンターで要予約)

託児サービス(定員有り、2,000円、3日前の正午までに要予約) 03-5432-1526

友の会のご案内

《友の会》会員募集中! メンバーには盛りだくさんの特典!

■ 世田谷パブリックシアター友の会
《SePT倶楽部》

特典

- ・チケット先行予約・チケット割引
- ・会報誌《SePT倶楽部》を毎月送付
- ・劇場内ロビーカフェ無料ドリンク券プレゼント
- ・企画イベントへのご招待&ご優待

お問合せ

世田谷パブリックシアター友の会事務局

☎ 03-5432-1524

🏠 <http://setagaya-pt.jp/club/>

■ 世田谷美術館友の会
FRIENDS OF SETAGAYA ART MUSEUM

特典

- ・世田谷美術館・分館の観覧料が、有効期間内何度でも無料
- ・実技講座・鑑賞会・美術館巡りなどへの参加
- ・会報《世田谷美術館友の会だより》を年3回送付
- ・提携美術館の入館割引
- ・館内ミュージアムショップの割引

お問合せ 世田谷美術館友の会事務局

☎ 03-3416-0607

🏠 <http://setabi-tomonokai.jp/>

■ 世田谷文学館友の会
Setagaya Literary Museum Friendship Club

特典

- ・友の会独自の講座・文学散歩への参加
- ・友の会会報、おしらせ、文学館ニュース、展覧会の案内を送付

お問合せ 世田谷文学館友の会事務局

☎ 03-5374-9111

[各館友の会共通の特典/レストラン・カフェの割引]

世田谷美術館・分館、世田谷文学館観覧料優遇/レストラン・スカイキャロット(キャロットタワー26F)/レストラン・ル・ジャルダン及びSeTaBi Café(世田谷美術館内)

せたがやアーツカード

“世田谷区民限定”区民のみなさまのアート体験を応援する《せたがやアーツカード》▶



15歳以上の区民ならどなたでも登録できます。せたがや文化財団の各施設で割引料金などお得な特典をご用意。もちろん入会金・年会費無料!!

● 世田谷パブリックシアター / 音楽事業部

▶ チケット先行発売・会員割引(一部を除く)

● 世田谷美術館・分館 / 世田谷文学館 ▶ 観覧料割引

● 生活工房 ▶ 講座受講料割引(一部を除く)

● メールマガジン毎月配信(ご希望の方のみ)

世田谷美術館 / 向井潤吉アトリエ館 / 清川泰次記念ギャラリー / 宮本三郎記念美術館 / 世田谷文学館各館窓口でも受付。ファックスや郵送でも受け付けています。お申込みの際は、ご本人の住所が確認できる書類(運転免許証、各種健康保険証、住民基本台帳カード(写真付)、住民票などの写し)をご用意ください。

🏠 詳しくは、<http://www.setagaya-bunka.jp/artscard/>

お問合せ・申込み受付: せたがやアーツカード事務局 キャロットタワー5階 ☎ 03-5432-1548 (10時~19時) 年末年始を除く

今すぐお申し込みを!

せたがやのアートをみなさまの手で支えていただくために

寄付のお願い

文化・芸術の創造には、すぐれたアーティストの活躍はもちろんですが、それを支える有能なスタッフ、創造活動にふさわしい環境の施設など、ソフトとハードの両面で多大なエネルギーと資金が必要です。近年では企業メセナがその例にあたりますが、さらにその輪を個人のみなさまにも広げて、より身近に文化・芸術を支え、親しんでいただきたく、みなさまのご支援・ご協力をお願いいたします。

[寄付のお申込みについて]

おいくらからでもご寄付いただけますが、目安として2,000円からとさせていただきます。お申込みの際はお手数ですが、電話またはメールにてご連絡ください。

公益財団法人せたがや文化財団事務局

☎ 03-5432-1501

✉ jimukyoku@setagaya-ac.net

当財団への寄付は税法上の優遇措置を受けることができます。

個人によるご寄付の場合

確定申告を行うことで、寄付総額から2,000円を差し引いた金額が所得から控除されます。

法人によるご寄付の場合

「一般損金算入限度額」と「特別損金算入限度額」を上限として損金算入することが可能です。

個人住民税

都道府県・区市町村が各々の条例で指定した寄付金が個人住民税の寄付金控除の対象となります。ただし、各区市町村によって取り扱いが異なりますので、詳しくは、お住まいの区市町村にご確認ください。

せたがや文化財団は5つのジャンルを軸に
枠組みを超えた独創的な文化・芸術活動を行っています。

芸術と自然はひそかに協力して
人間を健全にする。

- 世田谷美術館
- 向井潤吉アトリエ館
- 清川泰次記念ギャラリー
- 宮本三郎記念美術館

文学を体験する空間

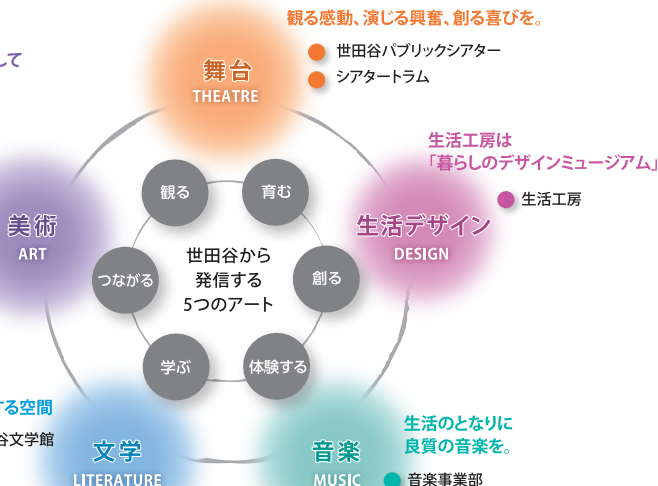
- 世田谷文学館

観る感動、演じる興奮、創る喜びを。

- 世田谷パブリックシアター
- シアタートラム

生活工房は
「暮らしのデザインミュージアム」

- 生活工房



Setagaya Arts Navigation

“今日、何やってる?”

せたがやアーツナビ 検索

<http://www.setagaya-bunka.jp/>



表紙 : (左から) 木下あかり 田中哲司 光石研 麻生久美子 大森南朋 赤堀雅秋 [写真: 加藤アラタ]

デザイン: 飯岡のみ

編集協力: ラユニオン・パブリケーションズ

*掲載した情報は2015年11月現在の情報です。やむを得ない事情などで開催予定、内容などが変更になることがあります。

*本誌に掲載の記事・写真の無断掲載を禁じます。

編集・発行: 公益財団法人せたがや文化財団

© Setagaya Arts Foundation. All rights reserved.

世田谷美術館分館 清川泰次記念ギャラリー

〒157-0066 世田谷区成城2-22-17
☎ 03-3416-1202 <http://www.kiyokawataiji-annex.jp/>



アクセス 小田急線「成城学園前」駅下車 南口から徒歩3分

世田谷文学館

〒157-0062 世田谷区南烏山1-10-10
☎ 03-5374-9111 (代) <http://www.setabun.or.jp/>



アクセス 京王線「芦花公園」駅下車 南口から徒歩5分
小田急線「千歳船橋」駅から京バス(歳23)
千歳烏山行「芦花恒春園」下車徒歩5分

世田谷文化生活情報センター

〒154-0004 世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
☎ 03-5432-1500 (代)



生活工房 ☎ 03-5432-1543 <http://www.setagaya-ldc.net/>
世田谷パブリックシアター／シアタートラム
☎ 03-5432-1526 <http://setagaya-pt.jp/>
音楽事業部 ☎ 03-5432-1535
<http://www.setagayamusic-pd.com/>

アクセス 東急田園都市線「三軒茶屋」駅下車徒歩2分(地下道直結)
東急世田谷線「三軒茶屋」駅下車徒歩0分
小田急バス・東急バス「三軒茶屋」駅下車徒歩1分

世田谷美術館

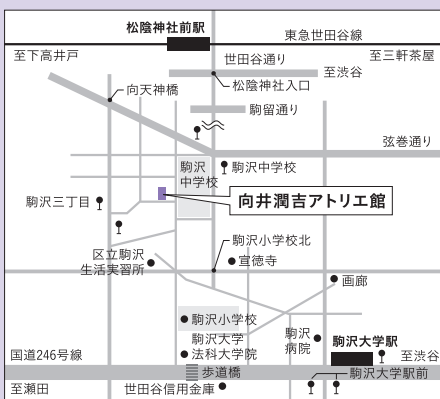
〒157-0075 世田谷区砧公園1-2
☎ 03-3415-6011 (代) <http://www.setagayartmuseum.or.jp/>



アクセス 東急田園都市線「用賀」駅下車徒歩17分または
美術館行バスで「美術館」下車徒歩3分
小田急線「成城学園前」駅から渋谷駅行バス「砧町」下車
徒歩10分
小田急線「千歳船橋」駅から
田園調布駅行バス「美術館入口」下車徒歩5分

世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 世田谷区弦巻2-5-1
☎ 03-5450-9581 <http://www.mukaijunkichi-annex.jp/>



アクセス 東急田園都市線「駒沢大学」駅下車 西口から徒歩10分
東急世田谷線「松陰神社前」駅下車徒歩17分

世田谷美術館分館 宮本三郎記念美術館

〒158-0083 世田谷区奥沢5-38-13
☎ 03-5483-3836 <http://www.miyamotosaburo-annex.jp/>



アクセス 東急大井町線・東横線「自由が丘」駅下車徒歩7分
東急目黒線「奥沢」駅下車徒歩8分
東急大井町線「九品仏」駅下車徒歩8分

公益財団法人 せたがや文化財団

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1
キャロットタワー5F
☎ 03-5432-1501 ☎ 03-5432-1559
<http://www.setagaya-bunka.jp/>